

《大地震、巨大津波のお見舞いと皆さんへのお願い》

東北地方太平洋沖地震とその後の大津波は未曾有の被害をもたらしました。被害状況が報道されるたびに死亡者や行方不明者が増加し、誠に痛ましい結果となっています。今後どの程度の被害になるのかは想像もできないようです。被害に遭われた皆様方に心よりお見舞い申し上げます。そして不幸にも亡くなられた方のご冥福をお祈り致します。

これまで日本で放映されている津波の光景とは似ても似つかぬ巨大な波と水の襲撃でした。数年前のスマトラ沖地震による巨大津波の再現を見るような恐ろしい光景でした。地震から津波まで時間差があります。逃げられたか逃げ遅れたかはほんの僅かな差ではなかったかと想像します。その無念さを思うときこの世の不条理の切なさを嘆きます。

発生日に出発し、一昨日帰津した災害派遣医療チーム（DMAT）の報告を聞きました。死亡原因のほとんどは津波によるものとのことでした。冷たい水に長時間浸かっていたため低体温による死亡や溺死で、家屋の下敷きによる圧死ではなかったようです。

原子力発電所（原発）の地震と津波による事故も深刻な事態になっています。核燃料を密閉している最外側の格納容器の破損は放射線汚染の危険が想定されます。そのような危険な事態が進行しないように関係者の最善の努力をお願いします。

昭和19年12月の東南海地震では三重県南部が大きな被害を受けました。尾鷲や紀伊長島を中心に1200名以上の死者を出しました。この時も5m以上の津波による被害が大きかったようです。私の先輩もその津波を経験したとのこと。サイレンが鳴り続けたため、小学生であった彼は恐怖の中、必死になって山に向かって逃れたと話してくれました。

東海、東南海、南海地震は今回と同じような複合型の地震となる可能性は高いと思います。地震と津波には時間差があります。非常事態に際しては住民が深刻さを感じるような警報を発してもらうように行政をお願いしますし、我々はそれを真摯に受け止めなければなりません。

被災地域の大学教職員、学生に重ねてお見舞い申し上げます。勇気ある皆様は今回の困難を克服され、これまで以上に教育、研究機能を回復され、社会に貢献されるものと確信しています。

三重大学の教職員、学生の皆さん、義捐金活動が行われています。ご協力よろしく申し上げます。

国立大学法人三重大学長

内田 淳二